



斜流ダクトファン 標準形 消音形

形名
JE-12SA2, JF-30SA2・50SA2・70SA2・70TA2・90SA2
JF-90TA2・120SA2・120TA2・160SA2・160TA2・210SA2
JF-210TA2・300TA2・400TA2・500TA2 (標準形)

JFU-30SA2・50SA2・70SA2・70TA2・90SA2・90TA2
JFU-120SA2・120TA2・160SA2・160TA2・210SA2
JFU-210TA2・300TA2・400TA2・500TA2 (消音形)

取扱説明書 (据付工事説明書付)

工事店様へ ■据付工事終了後は、必ずこの説明書をお客様にお渡しください。

据付工事を始める前に必ずこの説明書をお読みになり、正しく安全に据付けてください。
据付工事は販売店様、または専門の工事店様が実施してください。(安全や機能の確保ができません)
■この製品は単相製品と3相製品があります。電源を確認して据付工事を行ってください。

お客様へ

ご使用前に必ずこの説明書をお読みになり、正しく安全にお使いください。
なお、お読みになった後は、お使いになる方がいつでも見られるところに添付別紙の「三菱業務用/産業用換気送風機 修理窓口・ご相談窓口のご案内」とともに保管してください。

この製品は日本国内用です。日本国外では使用できません。またアフターサービスもできません。
This appliance is designed for use in Japan only and can not be used in any other country.
No servicing is available outside of Japan.

1 安全のために必ず守ること

誤った取扱いをしたときに生じる危険とその程度を、次の表示で区分して説明しています。

お客様へ

警告 誤った取扱いをしたときに死亡や重傷などに結びつく可能性のあるもの	注意 誤った取扱いをしたときに軽傷または家庭・家財などの物的損害に結びつくもの
水ぬれ禁止 製品を水につけたり、水をかけたりしない ショートや感電の原因。	禁止 製品に異常な振動が発生した場合は使用しない 製品・部品の落下によりけがの原因。
分解禁止 どんな場合でも改造はしない 分解修理は修理技術者以外には行わない 火災・感電・けがの原因。 修理はお買上げの販売店または当社の「三菱業務用/産業用換気送風機修理窓口・ご相談窓口」にご相談ください。	接触禁止 運転中は危険なため、製品の中に指や物を入れない けがの原因。
接触禁止 電源が入ったままで運転が停止しているとき、または非常時(こげ臭いなど)・停電時は製品には絶対に入れない 突然運転し始めてけがや感電の原因。	指示に従い必ず行う お手入れの際は必ず分電盤のブレーカを切る感電やけがの原因。 長時間使用しないときは、必ず分電盤のブレーカを切る 絶縁劣化による感電や雷電・火災の原因。
ぬれた手で操作をしない 感電やけがの原因。	

工事店様へ

警告 誤った取扱いをしたときに死亡や重傷などに結びつく可能性のあるもの	注意 誤った取扱いをしたときに軽傷または家庭・家財などの物的損害に結びつくもの
爆発性の粉じんや可燃性ガスの発生する場所または発生するおそれのある場所には据付けない 爆発や火災の原因。	開梱・据付け・取付け・点検およびお手入れの際は手袋を着用する 端面などでけがの原因。
直接炎があたるおそれのある場所には据付けない 火災の原因。	本体に荷重をかけない 落下・変形の原因。
40℃を超える空気を製品内に通さない 絶縁劣化による感電や雷電・火災の原因。	漏電ブレーカを設置する 漏電のときに感電の原因。
湿度90%を超える空気を製品内に通さない 感電や火災の原因。	製品の据付工事は十分強度のあるところを選んで確実に行う 落下によりけがの原因。
製品は屋外など雨のあたる場所や浴室など湿気の多い場所(湿度90%超)には据付けない 感電や火災の原因。	保守点検の際は必ず分電盤のブレーカを切る 感電やけがの原因。
定格電圧・定格周波数以外では使用しない 火災・感電の原因。	厨房の排気には使用しない 火災の原因。
垂直据付けは行わない 落下によるけがの原因。	電気工事は必ず有資格者である電気工事が内線規程や電気設備技術基準に従って行う。 絶対に「手より接続」はしない。又、電源電線の結線部分はJIS C 8340の「電線管用金属ボックスおよびボックスカバー」内にて行う 接続不良や誤った電気工事は感電や火災の原因。
燃焼器具の排気ダクトには据付けない 火災の原因。	アース線は必ず接続せよ 故障や漏電のときに感電の原因。
煙突で排気する燃焼器具を設置した部屋の排気に使用する場合は、排気ガスが室内に逆流しないよう、十分な大きさの給気口を設置する 一酸化炭素中毒を起す原因。	
メタルスズリ、ワイヤラス張り、または金属板張りの木造の造営物に製品および製品に接続された金属ダクトが貫通する場合、製品および金属ダクトとメタルスズリ、ワイヤラス、金属板とが電氣的に接触しないよう据付ける 漏電のときに発火の原因。	

2 据付け前のお願い

規制

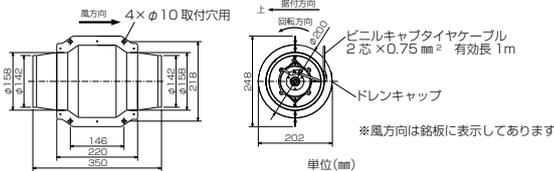
- 共同ダクトへ排気する場合は、建築基準法施行令によりダクトがφ150以下で有れば2mの鋼板立上がりダクト、または煙逆流防止ダンパーを据付け、φ150を超える場合は防火ダンパーを設置してください。
- 配管用システム部品については、地区により異なる規制を受ける場合がありますので、あらかじめ所轄の官公庁(特に消防署)にご相談ください。

お願い

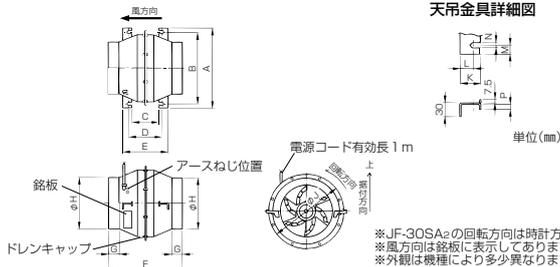
- 据付場所が悪いと故障の原因になります。次のような場所には据付けないでください。
 - ・40℃を超える場所
 - ・結露するおそれのある場所
 - ・ほこりや油煙の多い場所
 - ・排気ダクトは雨水の浸入を防ぐため屋外に向けて1/100以上の下りこう配をつけ、外壁から本体までのダクト長さを1m以上確保し、先端にウェザーカバー(別売品)などを取付けることをおすすめします。
 - 右のようなダクト工事はしないでください。(風量低下や異常音発生の原因になります)

3 外形寸法図

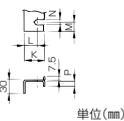
■JE-12SA2



■JE-12SA2を除く標準形 (JFタイプ)



天吊金具詳細図

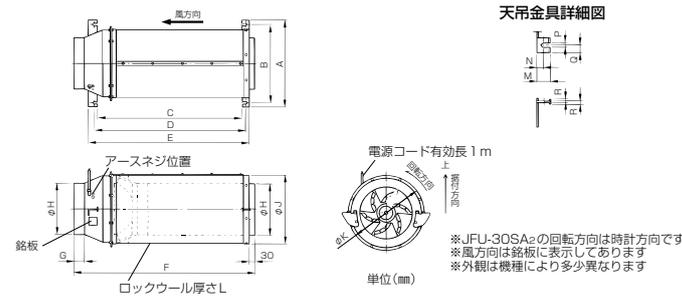


変寸法表 (標準形)

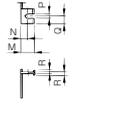
形名	電源コード	A	B	C	D	E	F	G	H	J	K	L	M	N	P
JF-30SA2	A	340	300	80	113	170	280	50	200	300					
JF-50SA2	A	389	349	128	161	218	350	51	250	360	45	28.5	20	11	12
JF-70SA2	A														
JF-70TA2	B														
JF-90SA2	A	450	410	144	177	234	400	55	300	430					
JF-90TA2	B														
JF-120SA2	A														
JF-120TA2	B														
JF-160SA2	C	543	490	136	198	261	434	48	323	515	62.8	31.8	26.5	13	26.8
JF-160TA2	B														
JF-210SA2	C														
JF-210TA2	B														
JF-300TA2	D	583	530	218	280	343	500	62	400	555					
JF-400TA2	D														
JF-500TA2	D	713	660	256	318	381	600	57	500	685					

電源コード A: ピニルキャブタイヤケーブル2芯×0.75mm² B: 特殊耐熱ピニルキャブタイヤケーブル3芯×0.75mm²
C: ピニルキャブタイヤケーブル2芯×1.25mm² D: 特殊耐熱ピニルキャブタイヤケーブル3芯×1.25mm²

■消音形 (JFUタイプ)



天吊金具詳細図



変寸法表 (消音形)

形名	電源コード	A	B	C	D	E	F	G	H	J	K	L	M	N	P	Q	R
JFU-30SA2	A	360	320	627	660	706	790	50	200	274	300	30					
JFU-50SA2	A	417	377	689	722	768	860	51	250	331	360	40	34	17.5	11	20	7.5
JFU-70SA2	A																
JFU-70TA2	B																
JFU-90SA2	A	478	438	722	755	801	910	55	300	392	430	50					
JFU-90TA2	B																
JFU-120SA2	A																
JFU-120TA2	B																
JFU-160SA2	C	593	540	748	810	866	977	48	323	477	515	75					
JFU-160TA2	B																
JFU-210SA2	C																
JFU-210TA2	B																
JFU-300TA2	D	633	580	788	850	906	1010	62	400	517	555	60	55	24	13	26.5	11.3
JFU-400TA2	D																
JFU-500TA2	D	763	710	858	920	976	1110	57	500	647	685	75					

電源コード A: ピニルキャブタイヤケーブル2芯×0.75mm² B: 特殊耐熱ピニルキャブタイヤケーブル3芯×0.75mm²
C: ピニルキャブタイヤケーブル2芯×1.25mm² D: 特殊耐熱ピニルキャブタイヤケーブル3芯×1.25mm²

4 据付方法

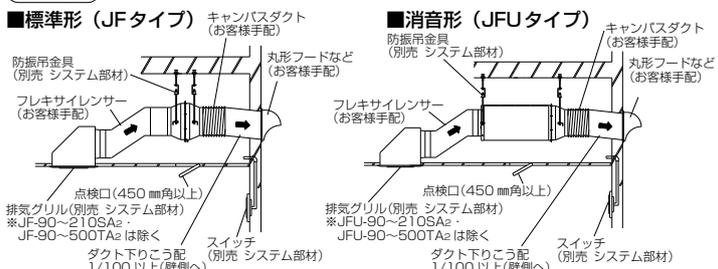
1. 据付け前の準備

注意
開梱の際は手袋を着用する 端面などでけがをする原因。

お願い

- 据付け、運搬作業の際、羽根を変形させないよう十分注意してください。
羽根が変形しますとバランスがくずれ、振動・異常音発生などの原因となります。
- 吸込側には羽根にほこり・油がつかないように、フィルターのご使用をおすすめします。
(フィルターの選定には種類・メーカーにより圧力損失が異なる風量低下をまねくおそれがありますので十分注意してください)
- 天井埋込据付けの場合は、保守・点検ができるように450mm角以上の点検口を必ず設けてください。

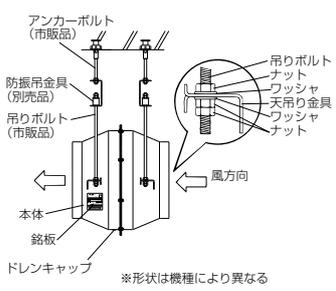
据付例



4 据付方法 つづき

【工事店様へ】

2. 本体の据付け



- 外形寸法図を参照し強固な据付場所に市販のアンカーボルトを埋め込む。(据付例参照)
- 本体が水平になるように本体を吊りボルトに据付け、下表を参照して市販のワッシャー・ナットにて締め付ける。

形名	ボルト・ナット・ワッシャー
JE-12SA ₂	M8
JE-12SA ₂ を除く機種	M10

- お願い**
- 垂直据付はできません。
 - 本体を据付ける場合、鉄板に風方向が表示してありますので吸込側と吹出側を間違えないように据付けてください。
 - 振動防止のため、防振吊金具(別売品)をご使用ください。
 - ドレンキャップは取付けた状態でご使用ください。
 - ゆりみ防止のため、ダブルナットで確実に締め付けてください。

3. 電気工事前の準備

警告

定格電圧・定格周波数以外では使用しない
火災・感電の原因。
アースを確実に取付ける
故障や漏電のとき感電の原因。

電気工事は必ず有資格者である電気工事が内線規程や電気設備技術基準に従って行う。絶対に「手より接続」はしない。又、電源電線の結線部分はJIS C 8340の「電線用金属ボックスおよびボックスカバー」内で行う
接続不良や誤った電気工事は感電や火災の原因。

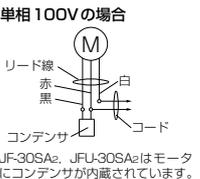
お願い

- モータの過負荷保護のため、モータブレーカ又は電磁開閉器(電磁接触器+サーマルリレー)の過負荷保護装置を電気設備技術基準や内線規程に従って設置してください。過負荷保護装置は必ず機種1台ごとに取付けてください。過負荷保護装置の選定は「8仕様」の最大負荷電流の1.2倍を目安にしてください。ただし、製品本体に過負荷保護装置の定格表示があるものは、表示内容に従い過負荷保護装置を設置してください。
- スイッチの容量選定は起動電流×接続台数の容量としてください。また、電磁接触器を操作するスイッチ容量は電磁接触器の操作コイル電流以上としてください。
- 3相200V製品は、ダクト接続する前に必ず回転方向を確認してください。電源接続を間違えますと逆回転します。(風量低下の原因になります) 回転方向が逆の場合は3本の電源のうち2本を入れ換えてください。

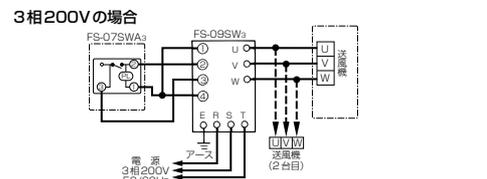
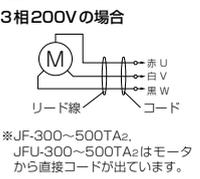
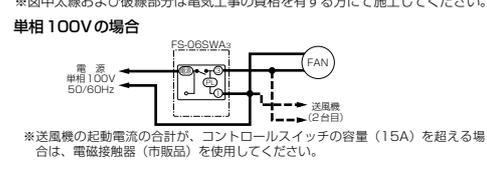
4. 電気工事

- 本体から出ている電源コードと電源電線を接続する。
●製品には、単相100Vと3相200Vがありますので間違えないか確認して接続してください。
- 電気工事によるD種接地工事を行う。

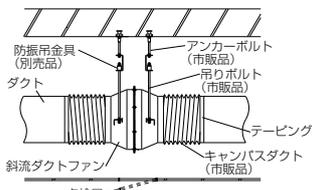
内部結線図



コントロールスイッチ(別売システム部材)との組み合わせ

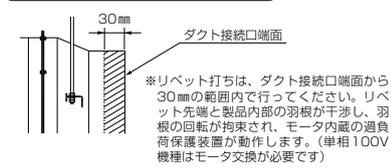


5. ダクト工事



- ダクトをダクト接続口にしっかり差し込みリベットなどで固定し、風漏れのないようテープングする。
- ダクトは本体に力が加わらないよう天井から吊ります。
 - 振動および芯ずれ防止のため、キャンバスダクトを使用します。

リベット固定位置に関するお願い



- お願い**
- 吸込側または、吹出側にダクトを付けないで使用する場合は、指などが入らないように保護ガード(お客様手配)を取付けてください。

5 据付工事後の確認・試運転

【工事店様へ】

据付け、ダクト工事、電気工事終了時には、下記項目を確認後、必ず試運転を行ってください。(機能が発揮できないばかりか、安全性が確保できません)

- 製品は確実に据付けてありますか。
- 電源コードに傷はありませんか。
- 電源電圧は正しいですか。
- 正しく結線されていますか。
- 正しくアース工事はしてありますか。

試運転時には次のような症状がないか確認し、あれば点検してください。

こんなとき	原因	点検
電源を入れても羽根が回転しないもしくは遅い	→ 正しく結線されていない	→ 3相品の場合 ●電源線は3本とも確実に接続できているか。 ●風量が徐々に減少している場合は羽根が逆回転しているおそれがあるので、3本の電源線のうち2本を入れ換える。
風量が少ない	→ 正しく据付けられていない	→ 製品の定格にあった電源が印加されているか確認する。 → ダクトに極端な曲げや、しぼりがないか確認する。
異常な振動・騒音がある	→ 正しく据付けられていない	→ 天吊り金具、吊りボルト、端子カバーが確実に締め付けられているか確認する。 → アルミテープの隙間から風漏れしていないか確認する。 → 製品の据付場所が十分強固であるか確認する。 → 製ダクトは製品に力が加わらないように吊られているか確認する。

6 お手入れのしかた

【お客様へ】

- 製品を長期間安心してご使用いただくために定期点検(ねじのゆるみ、錆、腐食の発生のないこと)を半年に1度を目処に行ってください。
- モータの軸受けには、注油の必要はありません。ただし、異常音、風量減少などが生じた場合は、点検のうえ軸受け交換が必要です。(グリースの寿命は、約3万時間です) 軸受けの交換は専門の工事店に依頼してください。ただし、以下の製品については軸受けの交換ができません。(モータ交換となります) JE-12SA₂、JF-30SA₂、JFU-30SA₂
- 羽根は、試験によってバランスが保たれていますので、ていねいに扱い、変形させないでください。

ドレンキャップについて

……標準形のみ

警告

湿度90%を超える空気を製品内に通さない
感電や火災の原因。
製品は屋外など雨の当たる場所や湿度の多い場所(湿度90%以上)には据付けない
感電や火災の原因。

注意

ドレンキャップを取りはずす前に必ずドレン受けを本体下部に置く
ドレンによる建物・機械などの損害の原因。
ドレンキャップは必ず常時取付けた状態で使用する
ドレンによる建物・機械などの損害の原因。

- 本製品は耐湿形ではございませんので、耐湿用途・結露環境でのご使用はできません。万一本体内部で結露が発生した場合は、専門の工事店へドレン抜き作業を依頼してください。ドレン排水後は、必ずドレンキャップを付けてください。

■JE-12SA₂



■JE-12SA₂を除く標準形



過負荷保護装置について

- モータに過負荷保護装置として、温度ヒューズまたは、自動復帰形サーマルプロテクターが内蔵されているものがあります。
- 拘束、過負荷、欠相運転、異電圧印加、あるいは周囲温度が基準以上に高い場合には上記過負荷保護装置が自動的に動作し回転が止まる場合がありますので、電源を切り原因を取り除いてください。再運転の場合には、以下を実施してください。
- 温度ヒューズ内蔵機種……単相100V機種
〈処置〉ヒューズが熔断し通電不能となり再運転できません。電源を切り、専門の工事店へモータ交換を依頼してください。
 - 自動復帰形サーマルプロテクター内蔵機種……3相200V機種
〈処置〉電源を切り、モータが冷えてから再運転してください。
電源を切らず通電したまま放置しますとサーマルプロテクターが動作を繰り返し、接触不良や接点溶着につながるおそれがあります。この場合は、モータ交換が必要となります。電源を切り専門の工事店へモータ交換を依頼してください。

7 アフターサービス

【お客様へ】

三菱斜流ダクトファンのアフターサービスは、お買上げの販売店または当社の「三菱業務用/産業用換気送風機 修理窓口・ご相談窓口のご案内」(別紙)にご相談ください。※別紙チラシが不明な方は下記窓口にてお問い合わせください。

■ご相談窓口

平日9:00~12:00 13:00~17:00(土・日・祝・弊社休日以外)
三菱電機換気送風機技術相談センター……電話0120-726-471(無料)
電話番号などについては変更になることがありますので、あらかじめご了承ください。

補修用性能部品の保有期間

当社は、この三菱斜流ダクトファン「標準形」「消音形」の補修用性能部品を製造打切り後9年保有しています。補修用性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。

8 仕様

【お客様へ】

【工事店様へ】

■標準形

形名	電源	公称出力(W)	極数(P)	接続ダクト寸法(mm)	質量(kg)	最大負荷電流(A)			起動電流(A)		
						50Hz	60Hz	50Hz	60Hz	50Hz	60Hz
JE-12SA ₂	単相100V50/60Hz	10	2	φ150	4	0.27	0.29	0.39	0.39		
JF-30SA ₂	単相100V50/60Hz	20	4	φ200	4.5	0.49	0.51	0.87	0.76		
JF-50SA ₂	単相100V50/60Hz	30	4	φ250	7.5	0.49	0.61	0.92	0.86		
JF-70SA ₂	単相100V50/60Hz	55	4	φ250	8.5	0.96			2.7	2.5	
JF-70TA ₂	3相200V50/60Hz	60	4	φ250	8	0.52	0.47	1.78	1.7		
JF-90SA ₂	単相100V50/60Hz	95	4	φ300	14	1.24	1.59	3.1	2.8		
JF-90TA ₂	3相200V50/60Hz	70	4	φ300	14	0.4	0.49	1.4	1.3		
JF-120SA ₂	単相100V50/60Hz	155	4	φ300	15	2.37	2.51	8.3	7.5		
JF-120TA ₂	3相200V50/60Hz	140	4	φ300	15	0.6	0.77	2.7	2.4		
JF-160SA ₂	単相100V50/60Hz	330	4	φ325	19	2.24	3.29	8.4	7.4		
JF-160TA ₂	3相200V50/60Hz	260	4	φ325	19	0.96	1.17	5.3	5		
JF-210SA ₂	単相100V50/60Hz	400	4	φ325	21	3.42	4.88	17.5	15.5		
JF-210TA ₂	3相200V50/60Hz	400	4	φ325	21	1.77	1.83	11.5	10		
JF-300TA ₂	3相200V50/60Hz	770	4	φ400	28.5	2.16	3	14.5	13.5		
JF-400TA ₂	3相200V50/60Hz	1100	4	φ500	54	3.11	4.65	24.4	21.8		
JFU-500TA ₂	3相200V50/60Hz	1100	4	φ500	55.5	3.9	5.56	36	32.8		

■消音形

形名	電源	公称出力(W)	極数(P)	接続ダクト寸法(mm)	質量(kg)	最大負荷電流(A)			起動電流(A)		
						50Hz	60Hz	50Hz	60Hz	50Hz	60Hz
JFU-30SA ₂	単相100V50/60Hz	20	4	φ200	11	0.49	0.51	0.87	0.76		
JFU-50SA ₂	単相100V50/60Hz	30	4	φ250	17.5	0.48	0.58	0.92	0.86		
JFU-70SA ₂	単相100V50/60Hz	60	4	φ250	17.5	1		2.7	2.5		
JFU-70TA ₂	3相200V50/60Hz	60	4	φ250	17.5	0.5	0.45	1.7	1.6		
JFU-90SA ₂	単相100V50/60Hz	80	4	φ300	24	1.24	1.62	3.1	2.8		
JFU-90TA ₂	3相200V50/60Hz	75	4	φ300	24	0.42	0.5	1.4	1.3		
JFU-120SA ₂	単相100V50/60Hz	150	4	φ300	26.5	2	2.33	7	6.4		
JFU-120TA ₂	3相200V50/60Hz	145	4	φ300	26.5	0.6	0.9	2.67	2.4		
JFU-160SA ₂	単相100V50/60Hz	330	4	φ325	36.5	2.32	3.37	8.4	7.4		
JFU-160TA ₂	3相200V50/60Hz	280	4	φ325	36.5	0.96	1.14	5.3	5		
JFU-210SA ₂	単相100V50/60Hz	400	4	φ325	39	3.44	4.85	17.5	15.5		
JFU-210TA ₂	3相200V50/60Hz	400	4	φ325	39	1.78	1.8	11.5	10		
JFU-300TA ₂	3相200V50/60Hz	690	4	φ400	46	2.23	3.13	14.5	13.5		
JFU-400TA ₂	3相200V50/60Hz	1100	4	φ500	78	3.15	4.73	24.4	21.8		
JFU-500TA ₂	3相200V50/60Hz	1100	4	φ500	79	3.91	5.65	36	32.8		